

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●ジョッキーベイベーズの中部地区代表が決定

6月21日(日)、中京競馬場で全国ポニー競馬選手権[第16回ジョッキーベイベーズ]の中部地区代表決定戦が実施され、山中心夏さん(中学1年生)が同地区代表に決定しました。本年の地区代表決定戦・選考会は7地区で行われ、関東地区から2名、その他の地区から各1名、計8名が10月11日(日)に東京競馬場で行われる決勝大会に出場します。

●ダート1,150mの中央競馬レコードタイム更新

6月27日(土)の2回福島1日・第9レースとして行われたさくらんぼ特別では、アメリカンチケット(騾5歳/栗東・藤原英昭厩舎)が1分6秒0のタイムで勝利しました。これは従来の記録である1分6秒1をコンマ1秒更新する、3歳以上・ダート1,150mの中央競馬レコードタイムとなります。

●田村康仁調教師が逝去

6月29日(月)、田村康仁調教師(美浦)が病気のため逝去されました。享年63歳でした。田村調教師は1997年に調教師免許を取得し、翌1998年に開業。JRA通算8284戦665勝の成績を残し、メジャーエンブレムで阪神ジュベナイルフィリーズとNHKマイルC、アスコピクターモアで菊花賞を制しています。なお田村調教師の管理馬63頭については、中館英二調教師(美浦)に26馬房の臨時貸付を行ったうえで、6月30日(火)付で全馬が転厩となっています。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●ミッキーファイトが人気に応じて帝王賞(大井)連覇達成

帝王賞(JpnI、7月1日、大井、2,000m)は、3番手から直線に入って間もなく先頭に立った単勝1.7倍で断然人気の昨年の覇者ミッキーファイト(戸崎圭太騎手、牡5歳、父ドレフォン)が、3番人気のアウトレンジに1馬身3/4差を付けて完勝。ラムジェットは5着、2番人気に推されたロードクロノスは6着、カズタンジャーは7着、ナチュラルライズは8着、カゼノランナーは9着でした。

●高知優駿(高知)はカツテナイオイシサ【各地の主要3歳重賞】

高知優駿(6月14日、高知、1,900m)は、2番手から4コーナー手前で逃げ馬を捉えたカツテナイオイシサ(牡、父ヴァンセンヌ)がそのまま押し切り、単勝1.1倍の支持に応じて黒潮皇月賞に続く高知二冠を達成。新緑賞(6月11日、笠松、1,400m)は、好発から2番手に控えた2番人気のアースジャッジ(牡、父マクフィ)が4コーナーで抜け出して5馬身差で圧勝、JRA(3戦未勝利)から笠松移籍後2連勝で重賞タイトルを獲得しています。

●タガノミストらが参戦、7月8日のスパーキングレディーC

スパーキングレディーC(JpnIII、7月8日、川崎、1,600m)は、どの馬も一長一短があって混戦模様ですが、前走リステッド勝ちのタガノミスト、2,000mのJpnIII優勝馬アピーリングルック、3歳馬タマモフリージア、2年ぶりのダートとなるカピリナ、ホーリーグレイル(川崎)までが争覇圏内と考えられます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1スティーブンフォスターS〜マグニチュードが4連勝

現地6月27日にアメリカ・ケンタッキー州のチャーチルダウンズ競馬場で行われたG1スティーブンフォスターS(4歳上、ダート1,800m)は不良馬場の中、J.オルティス騎手を背に逃げたマグニチュード(牡4歳、父ノットディスタタイム、S.アスムッセン厩舎)がバエザの追い込みを1馬身1/4差しりぞけて優勝しました。2着から4馬身差の3着に昨年の米年度代表馬ソヴリンティ。勝ったマグニチュードは昨年9月のG1ペンシルベニアダービーではバエザの2着でしたが、そこから11月のG2クラークS(ダート1,800m)、今年2月のG3レイザーバックH(ダート1,700m)、そして前走3月のG1ドバイワールドC(ダート2,000m)と連勝。ここはレース前にゲートを突き破って出てしまうアクシデントがありましたが、仕切り直しのスタートをしっかりと決めて勝利に繋がりました。

●G1愛ダービー〜ベンヴェヌートチェッリーニが巻き返す

6月28日にアイルランドのカラ競馬場で行われたG1愛ダービー(3歳牡牝、芝2,400m)はR.ムーア騎手が手綱を取ったベンヴェヌートチェッリーニ(牡3歳、父フランケル)が中団追走から残り200m手前で先頭に立つと、英ダービー馬クリスマスデーに1馬身3/4差をつけて優勝。3着にもG1クリテリウムドサンクルーの勝ち馬ビエールボナールが入り、これで自身の持つ最多勝記録を更新する18勝目を挙げたA.オブライエ厩舎が1〜3着を占めました。勝ったベンヴェヌートチェッリーニは今季初戦となった5月のG3チェスターヴァーズ(芝2,460m)を4馬身1/4差で勝利。しかし続く前走6月のG1英ダービーはゲート内の足場に左後肢が乗ってしまい大きく出遅れ。レース後に“ノンランナー”(＝競走に参加していないものとみなす馬)とされていました。